



2020 年 6 月 25 日

株式会社スカパー J S A Tホールディングス
代表取締役社長 米倉 英一
(コード番号：9412 東証第1部)
広報・IR 部長 加茂 弘子
TEL 03 (5571) 1500

スカパー J S A Tグループ 2019 年度通期決算説明会資料

株式会社スカパー J S A Tホールディングス（本社：東京都港区、代表取締役社長：米倉 英一）は、
2020 年 6 月 26 日に開催する決算説明会資料を別添のとおり開示いたします。

以 上



2020年3月期 通期決算説明会

2020年6月26日（金）

株式会社スカパーJSATホールディングス

証券コード：9412

本説明資料に掲載されている予想、戦略、経営方針、目標等のうち、歴史的事実でないものは、将来の見通しに関する記述であり、現在入手可能な情報にもとづく経営者の前提、計画、期待、判断などを基礎としています。これらの将来の見通しに関する記述は、様々なリスクや不確定要因の影響を受けるため、現実の結果が想定から著しく異なる可能性があります。このようなリスクや不確定要因のうち、現在想定しうる主要なものには、以下のようなものが含まれます。なお、リスクや不確定要因はこれらに限られるものではありませんのでご留意下さい。

《経営全般に関するリスク》

- ・ 当社グループの事業に係わる法的規制等による事業の制約のリスク
- ・ 顧客情報のセキュリティ及び顧客情報管理システムの障害に関するリスク
- ・ 大規模災害による重大設備障害に関するリスク

《衛星インフラに関するリスク》

- ・ 通信衛星の機能不全や運用能力低下に関するリスク
- ・ 通信衛星調達に関するリスク
- ・ 衛星への保険付保に関するリスク

《有料多チャンネル放送プラットフォームサービスに関するリスク》

- ・ 加入者獲得、維持に関するリスク
- ・ 放送事業者に関するリスク
- ・ システムに関するリスク
- ・ ICカードのセキュリティ等に関するリスク

2020年3月期

通期連結決算概要

連結損益概要

- ・ 営業収益は防衛省向け衛星売却の剥落等により前年度比では減収。
- ・ 親会社株主に帰属する当期純利益は、連結子会社間の吸収合併に伴う税金費用減少により、前年度を上回った。
- ・ 新型コロナウイルスによる2019年度決算への影響はメディア事業、宇宙事業ともに軽微。

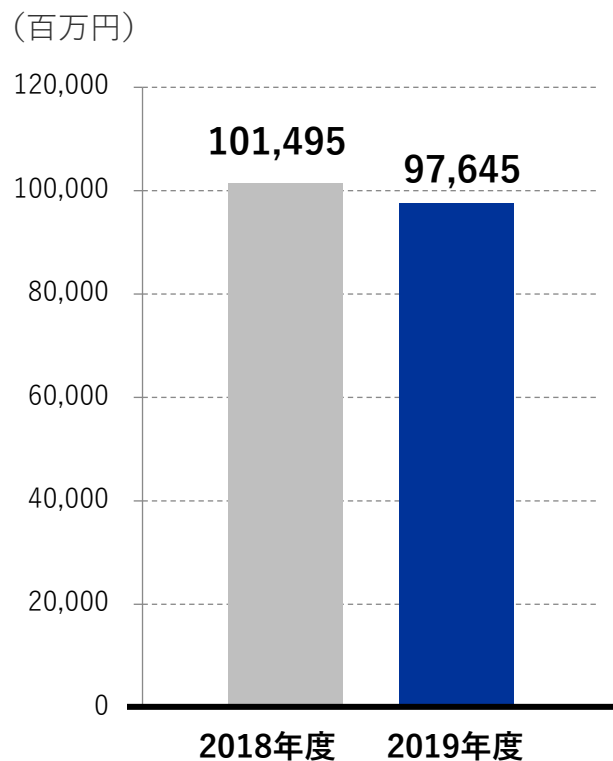
(百万円)

	2018年度	2019年度	増減率
営業収益	164,014	139,541	△14.9%
営業利益	15,290	15,263	△0.2%
経常利益	16,640	16,088	△3.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	9,681	12,027	24.2%
EBITDA *	40,742	41,531	1.9%

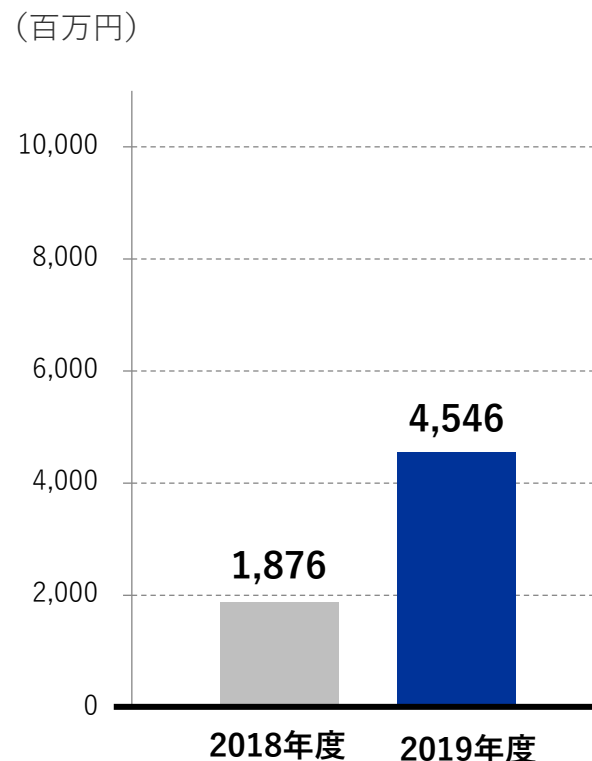
* EBITDA = 純利益 + 税金費用 + 減価償却費 + のれん償却費 + 支払利息

■セグメント利益（親会社株主に帰属する当期純利益）は45億円（前年同期比+26.7億円）

営業収益



セグメント利益



セグメント利益増減要因

■営業収益（△38.5億円）＊

- ・視聴料収入の減少：△39億円
- ・基本料収入の減少：△6億円
- ・業務手数料収入の減少：△4億円
- ・光回線によるテレビ再送信サービス収入増：+14億円

■営業費用（△44億円）＊

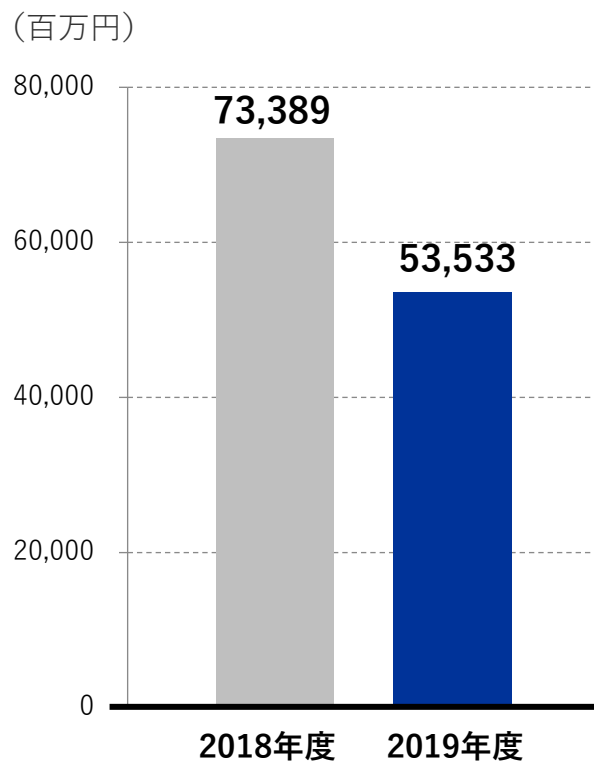
- ・番組供給料の減少：△20億円
- ・販売促進費・キャンペーン費用の減少：△22億円
- ・衛星回線料の増加：+6億円
- ・減価償却費の増加：+7億円

■その他

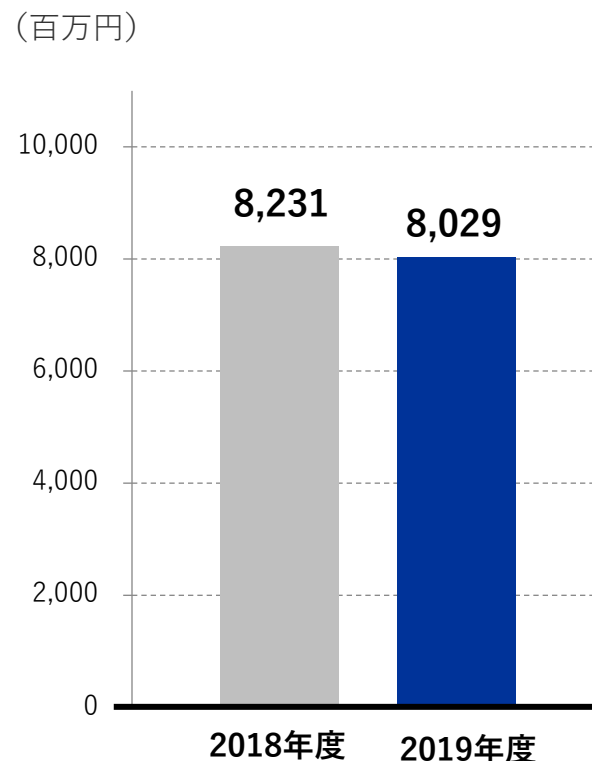
- ・連結子会社間の吸収合併に伴う税金費用減少：△22億円

■セグメント利益（親会社株主に帰属する当期純利益）は80億円（前年同期比△2億円）

営業収益



セグメント利益



セグメント利益増減要因

■営業収益（△198.6億円）＊

- ・北米子会社の営業収益増：＋12億円
- ・国内子会社の営業収益増：＋10億円
- ・放送トランスポンダ収入の増加：＋4億円
- ・防衛省向け通信衛星及び関連設備売却の剥落：△230億円

■営業費用（△193.3億円）＊

- ・北米子会社の営業費用増加：＋19億円
- ・減価償却費の増加：＋1億円
- ・衛星事業原価の減少等：△213億円

■その他

- ・公的資金返還損失：3億円

■「通信」「放送」という公共性の高いサービスを担う企業グループとして、BCP（事業継続計画）に基づき、運用体制を整え安定したサービス提供を継続

- ・原則、全役職員を対象とする在宅勤務の実施
- ・運用体制縮小下での事業継続
 - －横浜衛星管制センター、スカパー東京メディアセンター、スカパー！カスタマーセンター等

■お客様への取り組み

- ・自宅待機応援企画
 - ✓ アニメ／映画／音楽／ドラマ／公営競技などの無料放送
 - ✓ 東京宝塚劇場 休演公演の千秋楽／アイドル無観客ライブの生中継
 - ✓ プロ野球練習試合編成 他
- ・カスタマーセンターでの対応
 - ✓ 視聴料等の支払い期限延長
 - ✓ 解約申込受付期限の延長
- ・くもろぐ（教育支援）
 - ✓ 自宅待機が本格化し、アプリダウンロード数が10倍以上アップ

2020年度

連結業績予想

■JCSAT-17の提供開始等により前期比増収するも、新型コロナウイルスの影響を受け減益

(百万円)

	2019年度 通期実績	2020年度 通期予想	増減率
営業収益	139,541	140,000	0.3%
営業利益	15,263	12,000	△21.4%
経常利益	16,088	12,500	△22.3%
親会社株主に 帰属する当期純利益	12,027	8,000	△33.5%
EBITDA*	41,531	38,000	△8.5%

*EBITDA = (当期純利益) + (税金費用) + (減価償却費) + (のれん償却額) + (支払利息)

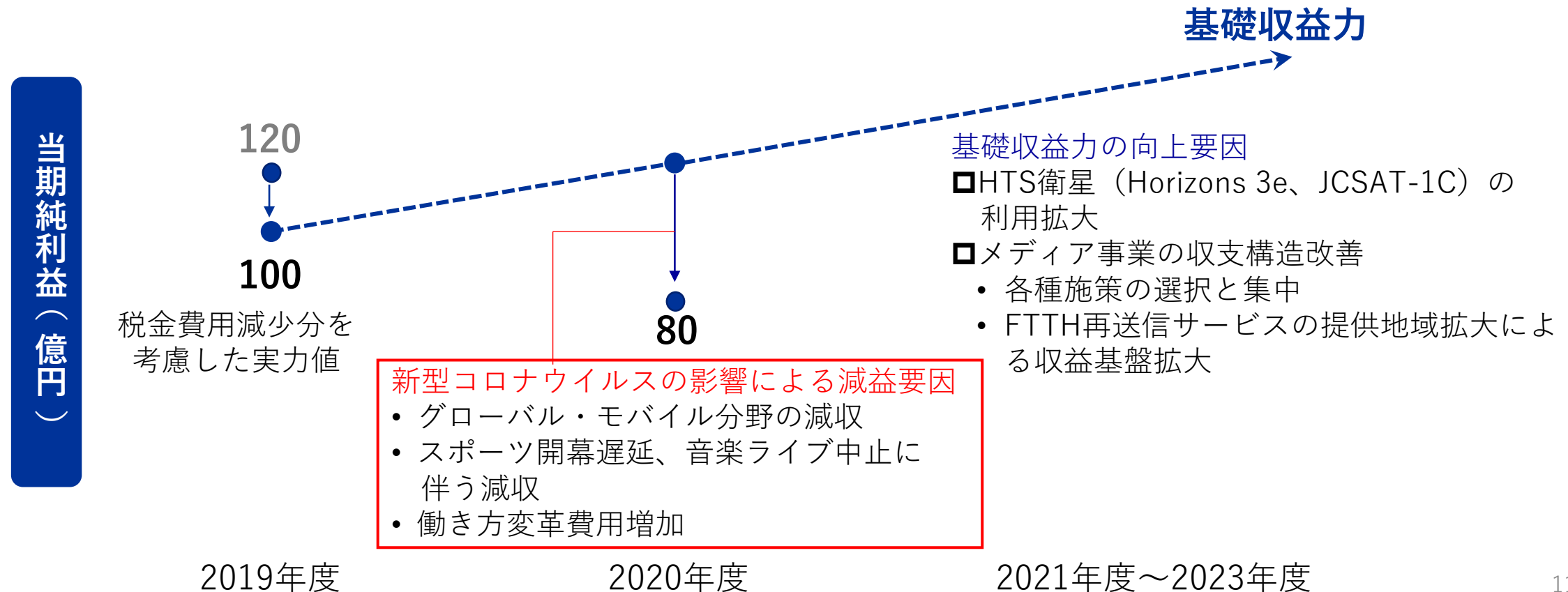
*JCSAT-17はファイナンス・リース取引の対象であるため、リース債権に計上

(百万円)

	2020年度 通期業績予想			
	メディア事業	宇宙事業	消去又は全社	連結合計
営業収益	93,900 (△3,745)	57,300 (3,767)	△11,200	140,000 (459)
営業利益	2,300 (△776)	10,300 (△2,601)	△600	12,000 (△3,236)
セグメント利益	1,800 (△2,746)	6,800 (△1,229)	△600	8,000 (△4,027)

() 内は、対前年度比

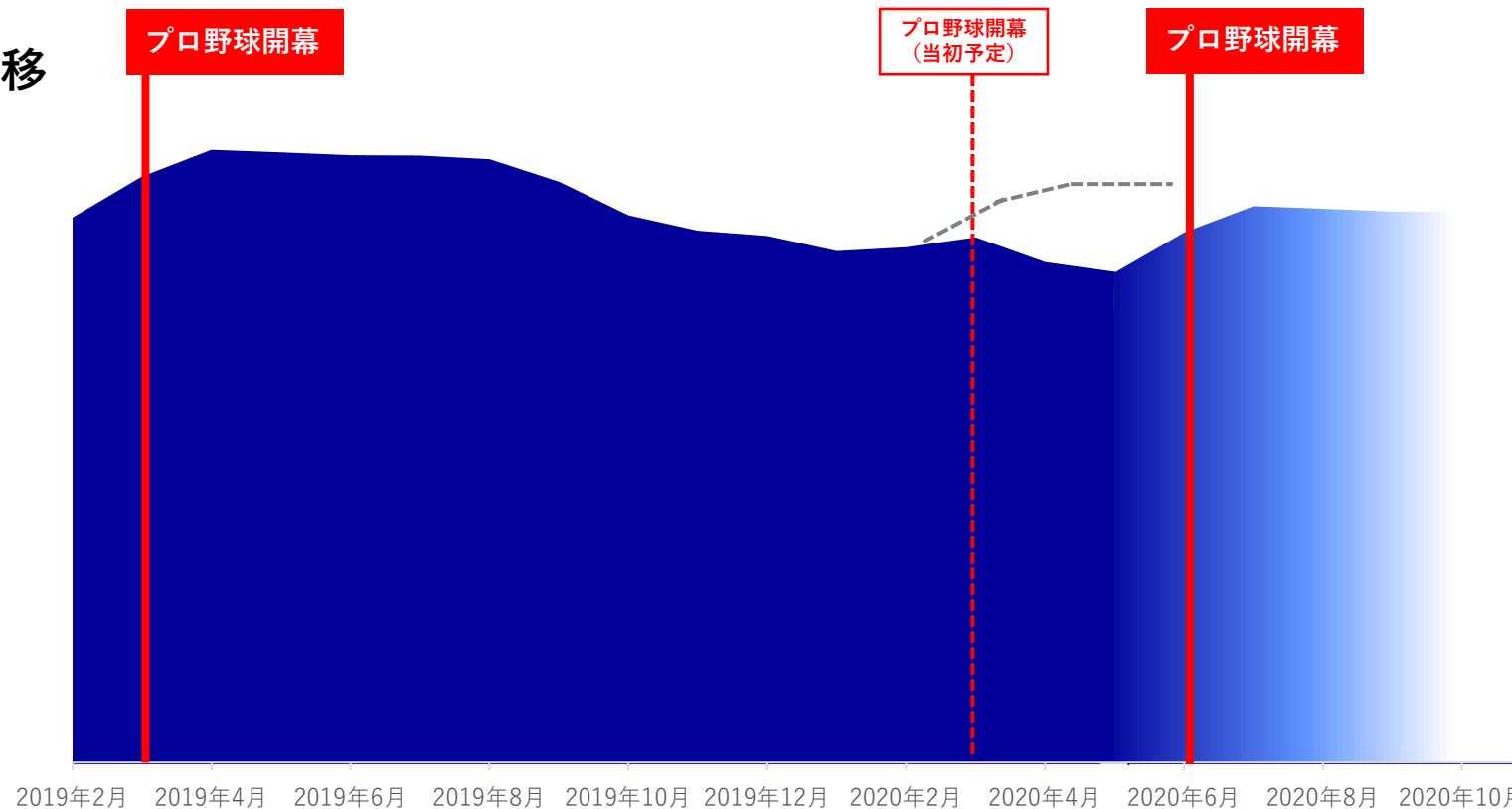
- 2020年度の親会社株主に帰属する当期純利益は80億円を見込む。
 - ・ 前年度からの減益の要因は、
 - ①2019年度は連結子会社間の吸収合併に伴う税金費用減少という特殊要因があったこと
 - ②新型コロナウイルスの影響に伴う一過性の減収によるもの
 - ・ 一方で、2018年度～19年度に投入した新規衛星3機の利用拡大で、
基礎収益力（一過性の要因を除いた親会社株主に帰属する当期純利益）は増加トレンドにある。



■2020年度

- ・ 第1四半期、例年加入を期待できる各種スポーツの開幕が遅延。また音楽ライブの中止も重なり、累計加入件数は減少（後ろ倒し）。伴って手数料収入・基本料収入等の減少が見込まれる
- ・ 開幕延期に伴う費用発生の一部が今期へずれ込む（プロモーション費や放送権・制作費など）

3 サービス ICカード数推移



	2018年度 累計	2019年度 累計	2020年度 加入目標
新規*（ICカード数 万件）	64.3	61.5	64.3
純増数（ICカード数 万件）	△1.5	△7.7	△8.2
（スカパー !）	（5.2）	（2.2）	（1.5）
（スカパー !プレミアムサービス）	（△6.7）	（△9.5）	（△9.2）
（スカパー !プレミアムサービス光）	（0.0）	（△0.5）	（△0.6）
累計加入件数（ICカード数 万件）	324.8	317.0	308.8
累計契約者数（契約者数 万件）	278.4	262.7	249.2
契約者月額支払単価（円）			
スカパー !	3,267	3,260	—
スカパー !プレミアムサービス	3,686	3,640	
スカパー !プレミアムサービス光	5,258	5,250	

*従来「新規」「再加入」として別々に集計していた加入件数を合算し、「新規」として集計しております

- スカパー！イエナカ応援キャンペーン（4/29～6/30）
 - ・基本プラン最大2カ月無料キャンペーンを実施。
 - 好調に推移し、5月度新規契約者数は前年比64.4%増

- スポーツコンテンツ 徹底放送



プロ野球（6/19 開幕）
今シーズンも12球団公式戦 徹底中継！



2020 F1グランプリ（7/3 開幕）
＜フジテレビNEXT、スカチャン2 4K＞



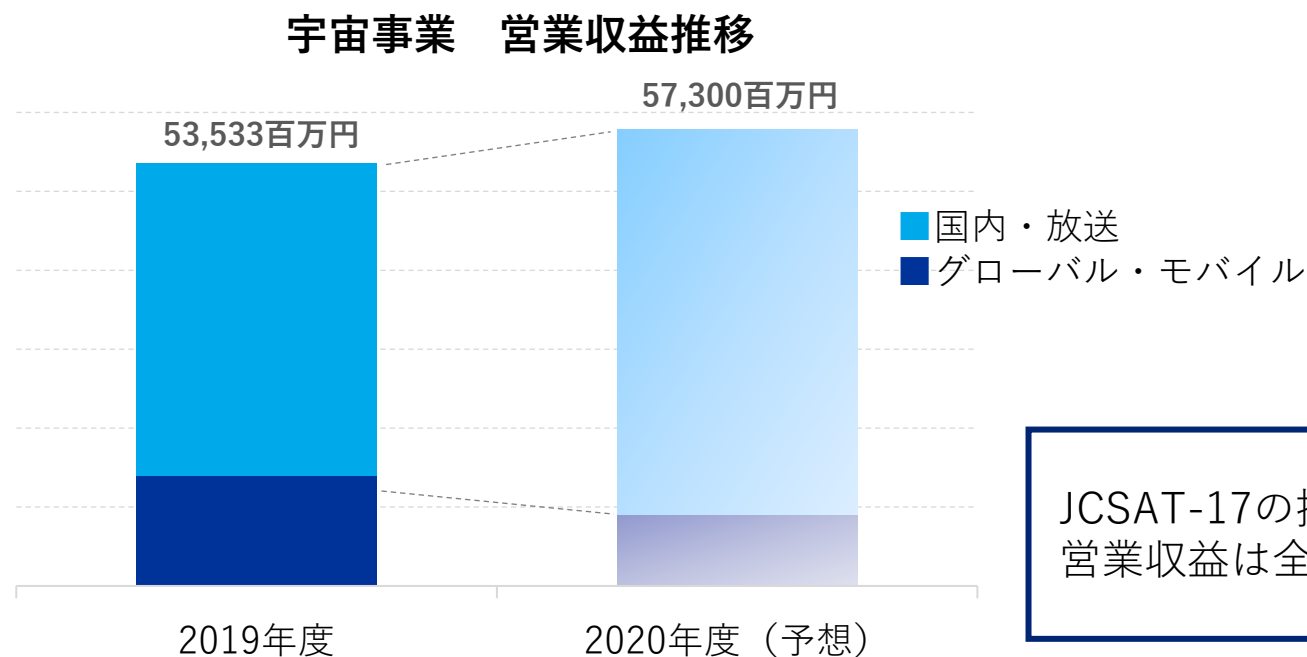
PGAツアー（6/12 再開）
＜ゴルフネットワーク＞



ブンデスリーガ（5/16 再開）
20/21 シーズンから5シーズンの独占放送権・配信権獲得

■2020年度

- ・ 運輸業界向けの影響が大きく、特に、航空機の減便に伴い機内インターネット回線の需要が大きく減少。船舶向け需要の一部減もあり、グローバル・モバイル分野は昨年度比減収となる見込み。
- ・ 国内の官公庁や法人向けのサービス需要は引き続き堅調。



JCSAT-17の提供開始（2020年4月）等に伴い
営業収益は全体として昨年度比増の見込み

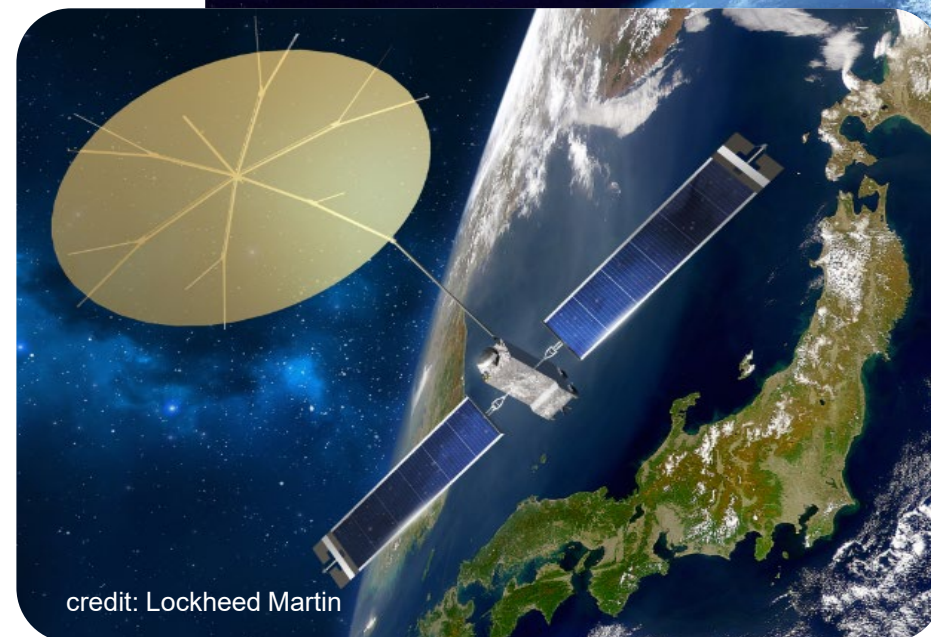
■ 新規衛星のサービス提供開始

JCSAT-18 (JCSAT-1C)

- ・ 2019年12月17日、ケープ・カナベラル空軍基地からスペースX社のFalcon 9ロケットによって打ち上げ成功。
- ・ 2018年度に打ち上げたHorizons 3eに続く当社2機目のHTS。アジア太平洋から極東ロシアまでをカバー。

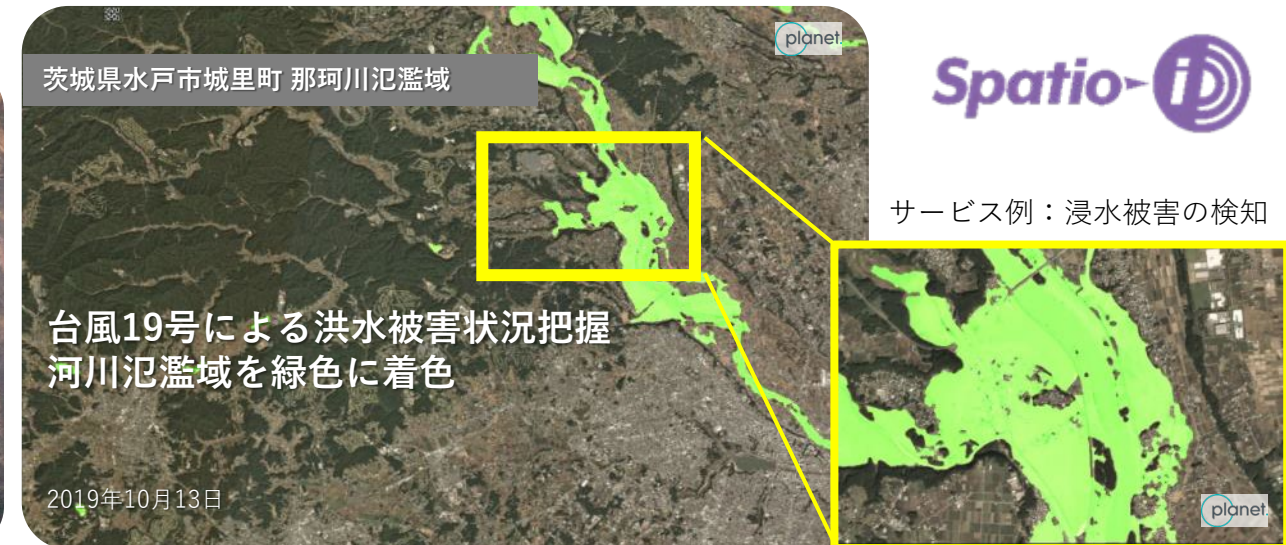
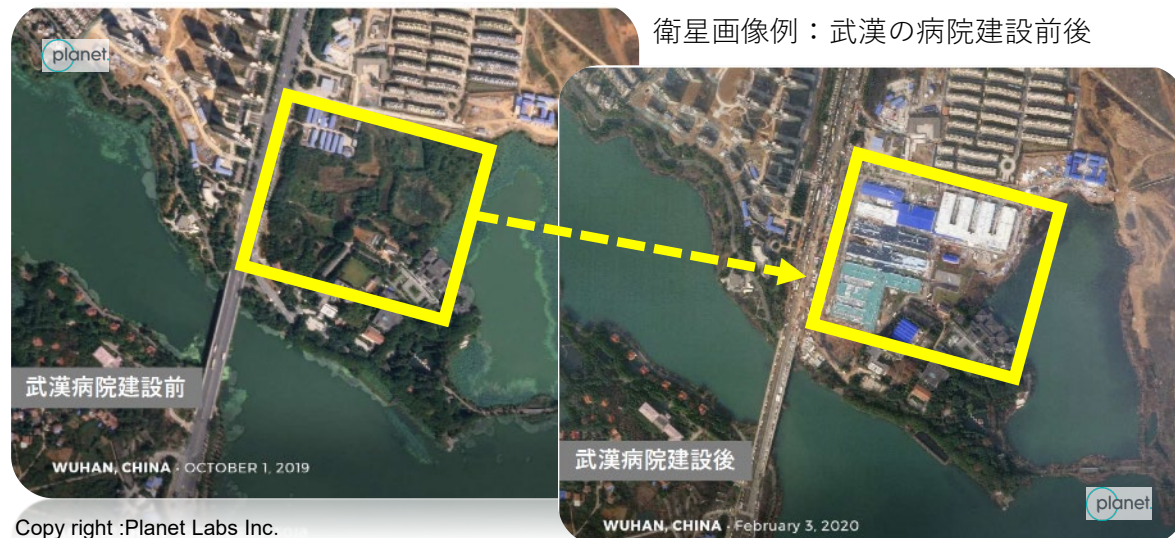
JCSAT-17

- ・ 2020年2月19日、ギアナ・スペース・センターからアリアンスペース社のAriane-5ECAロケットにて打ち上げ成功。
- ・ 移動体通信用Sバンド及びCバンドを搭載し、国内向けサービスとしてNTTドコモ社にてご利用。
- ・ 18mの大型アンテナを搭載し、小径のマルチビームによりサービスエリアを構成。



■ 情報サービスの提供拡大

衛星画像をはじめとする宇宙からの収集したデータを解析・加工し、情報サービス「Spatio-i」として提供。
災害状況の把握などをはじめとする様々な用途に活用。



■ 宇宙ごみ除去技術開発の着手

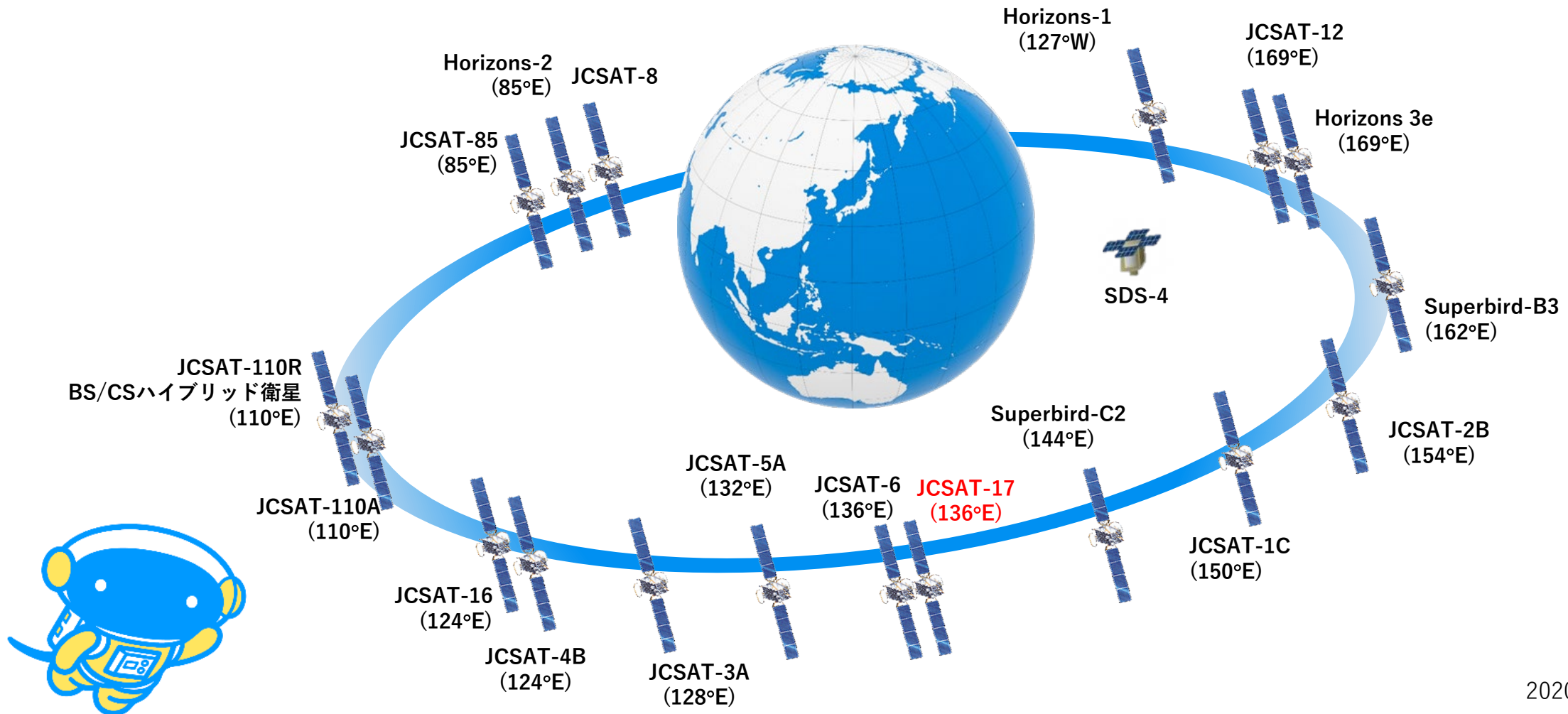
～宇宙のSDGs～ 持続可能な宇宙環境の維持をめざして

スペースデブリ（不用衛星等の宇宙ごみ）を除去する衛星の設計・開発に着手。世界初※のレーザー方式を採用。

※自社調べ（特許出願中）



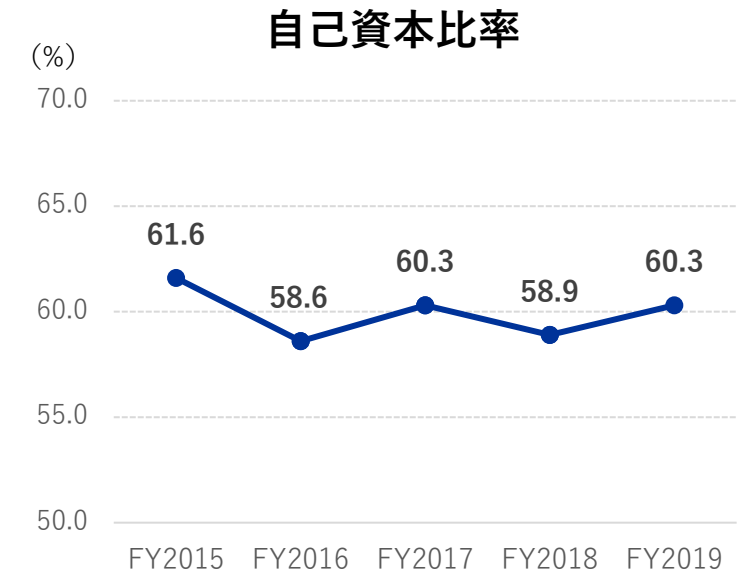
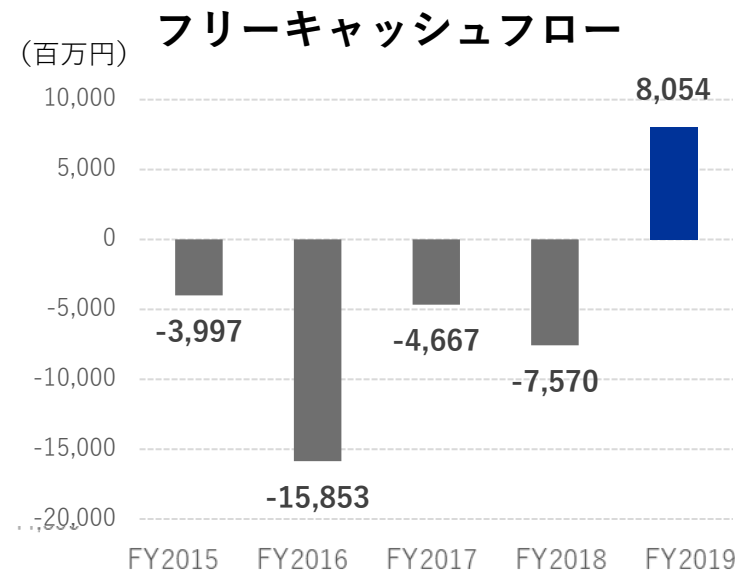
北米上空からインド洋上空まで 計19機 の衛星を保有 (2020年2月 JCSAT-17打ち上げ成功、4月サービス開始)



2020年6月

■安定した顧客基盤（宇宙事業、メディア事業）により財務的健全性を維持

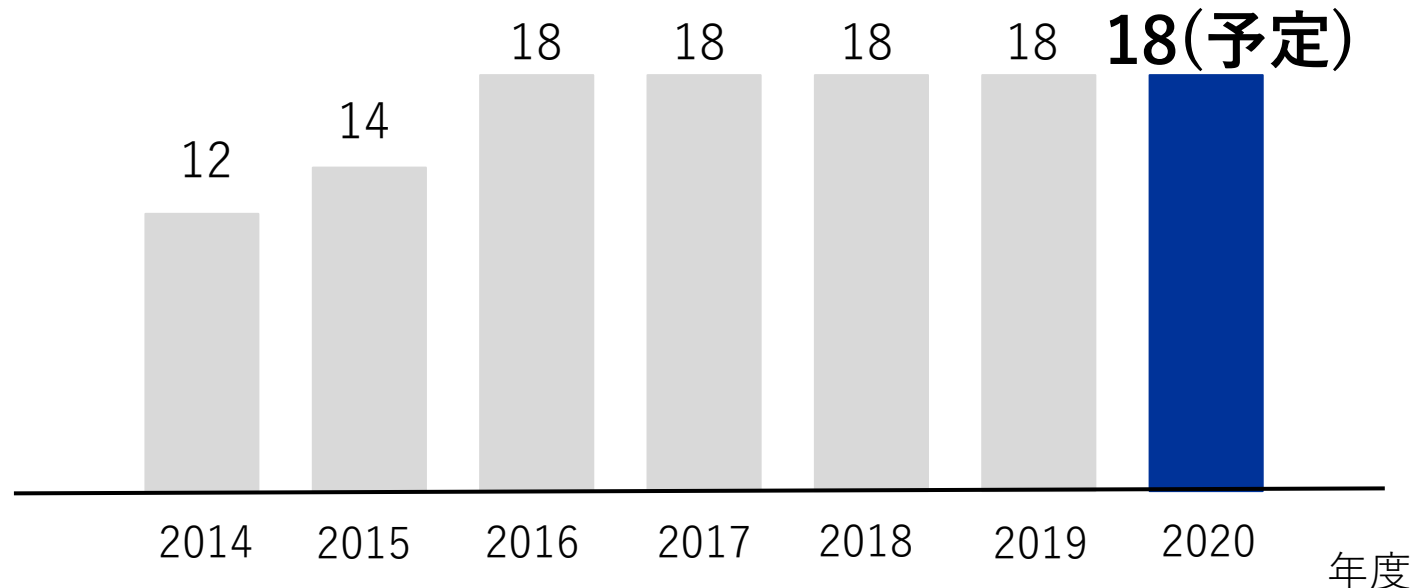
- ・ 現預金残高：400億円以上
- ・ コミットメントライン：100億円締結済
- ・ フリーキャッシュフロー：2019年度は新規3衛星と東京メディアセンターの設備投資終了に伴いプラス転換し、2020年度はさらに増加見込み
- ・ 自己資本比率：継続して50%以上を維持



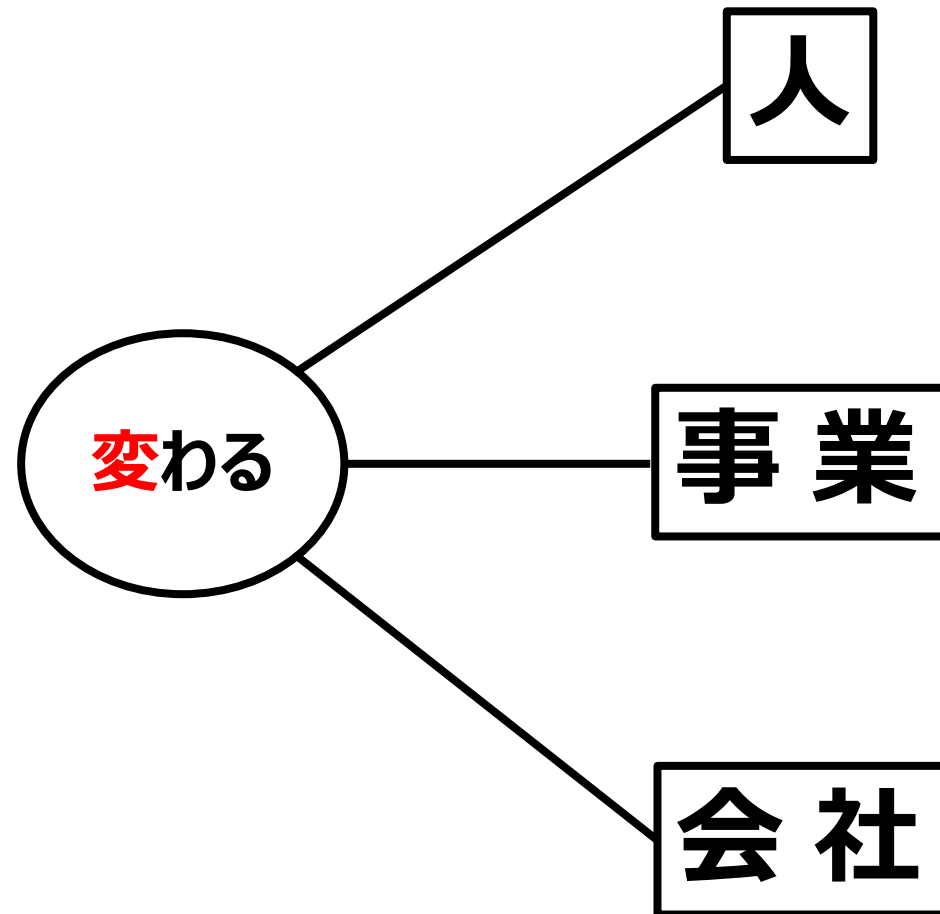
配当方針： 以下の条件を満たす配当額を実施
1株あたり年間 16 円以上、配当性向 30 %以上

基礎収益力の向上を図りつつ、
2020年度は1株あたり年間 18円の配当を実施予定

1株あたり年間配当額（円）



スカパーJSATグループ プラン2020+



REPOWERING

- 多様な人財登用
- 従業員満足度の向上

REBUILDING

- 選択と集中と採算性の向上
- 新たなビジネスモデルとグローバル展開
- デジタルシフト

REBRANDING

- 企業ブランドの再創生
- コーポレート・ガバナンス強化

目指す状態

①攻めの視点

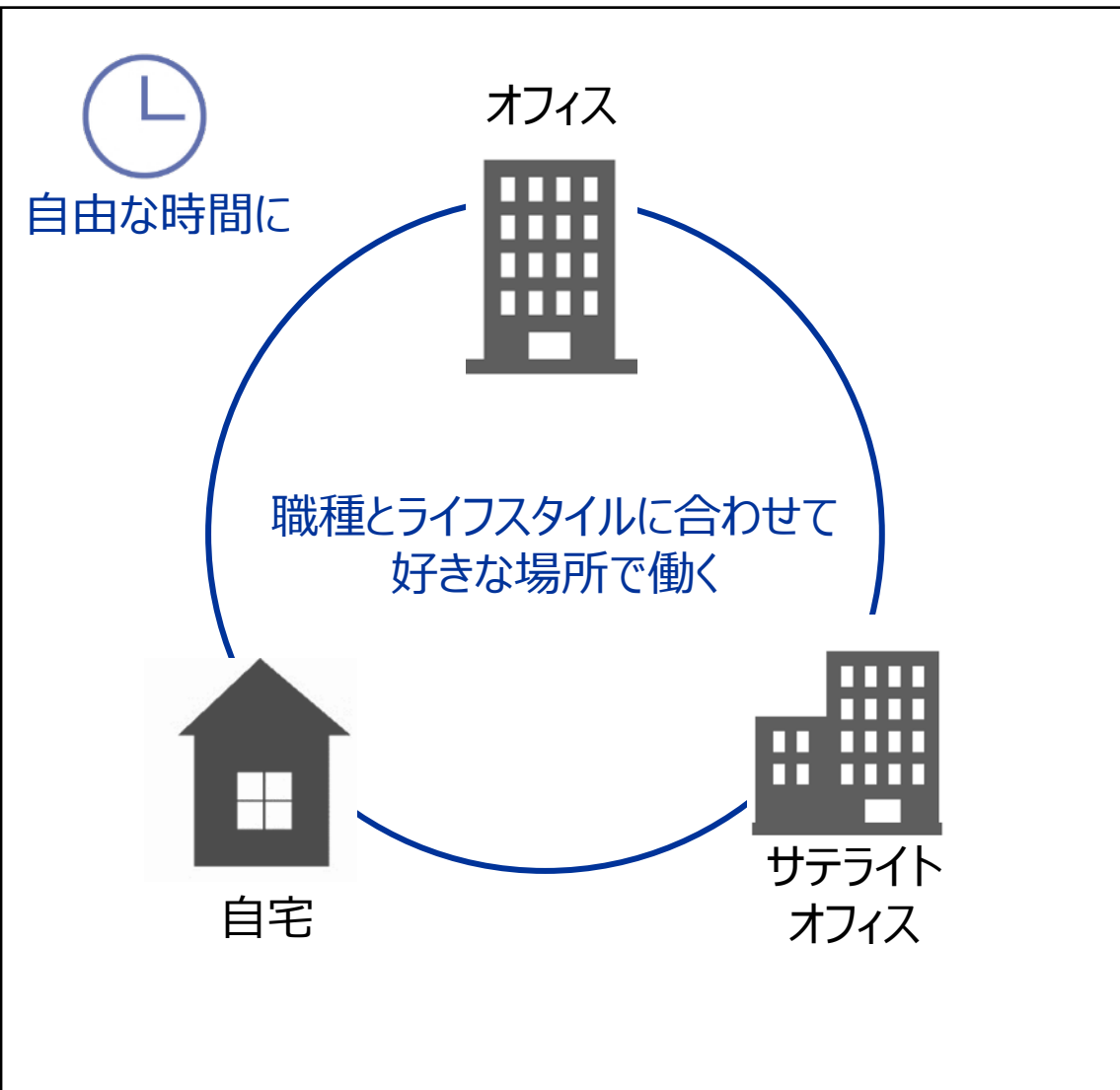
**社員のモチベーション、
業務の生産性・創造性を高め
会社の業績を向上させる**

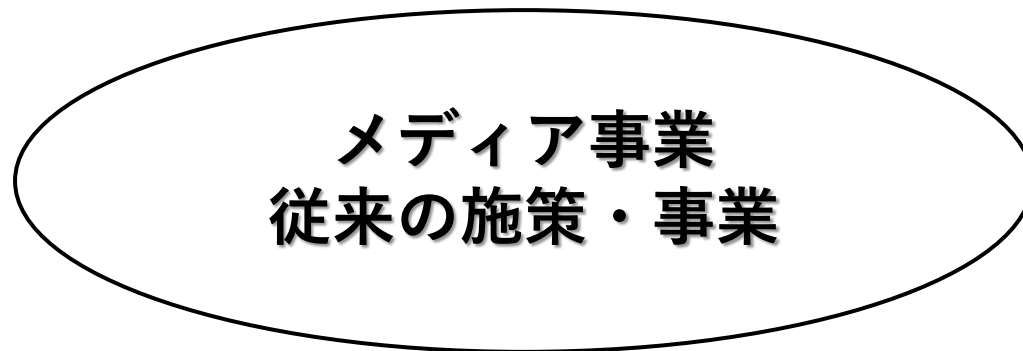
②守りの視点

**オフィスに行けない状態になったとして
も、事業を支障なく継続する**

社員はもとより社員の家族も健康で
あることを保つ

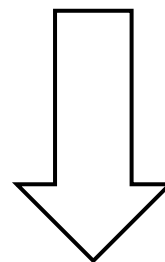
実現イメージ



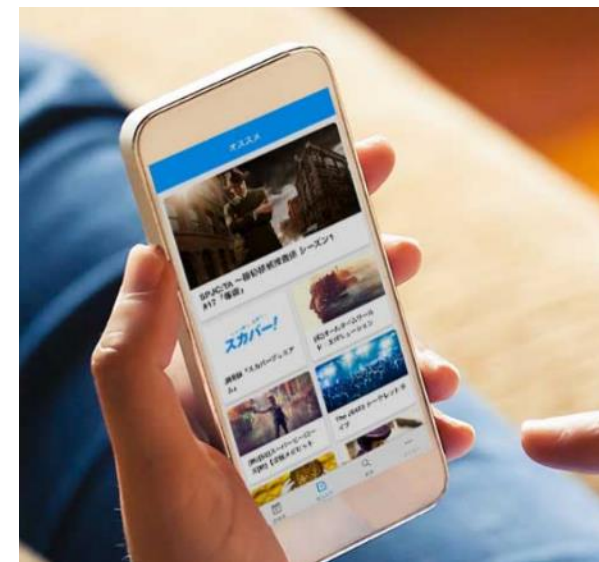


BSスカパー!

WakuWaku JAPAN



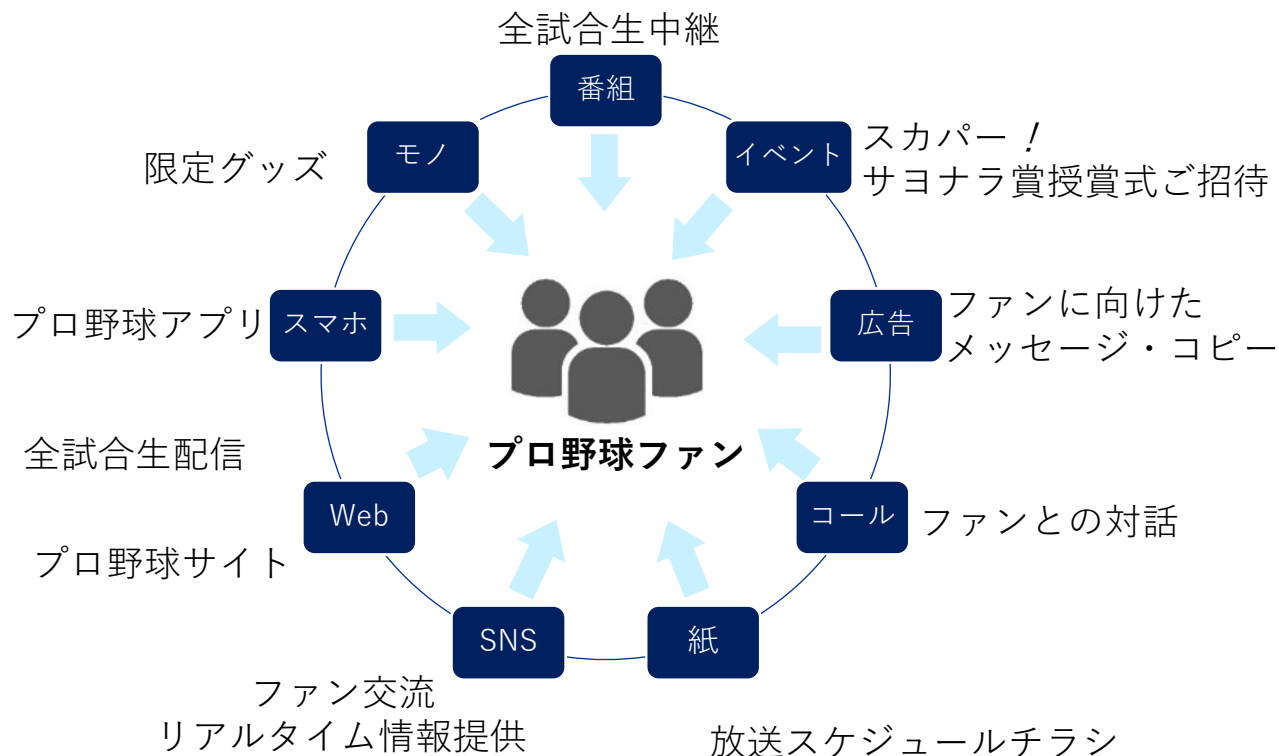
成果が出ている施策・事業に注力
成果創出に至らない場合は見極め
選択と集中



ファン・マーケティングの実現により、“コンテンツ+αの価値”を提供

＜プロ野球の例＞

- ・従来の全試合生中継、プロモーションのみならず、「プロ野球ファン」に寄り添う施策・サービスを追求し、お客様へ届けていく



＜ブンデスリーガの例＞

- ・20/21 シーズンから5シーズンの独占放送権、配信権獲得を含むパートナーシップを契約締結
- ・これまでの放送権・配信権という概念を超えて、ブンデスリーガと日本のファンをつなぐための積極的なファン・マーケティングを実行する



×

ココロ動く、未来へ。
スカパー!

新たな領域への進出

宇宙空間ビジネス



軌道上サービス

有人滞在

地球観測

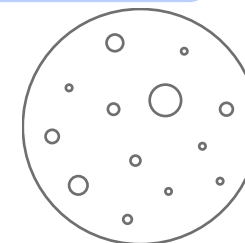
衛星通信・放送



地上局サービス

深宇宙ビジネス

探査・資源開発



Partnership

Collaboration

輸送ビジネス

サブオービタル

ロケット製造・打ち上げ

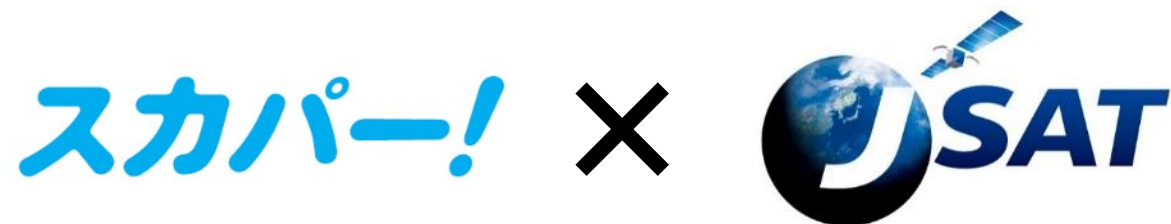


低軌道

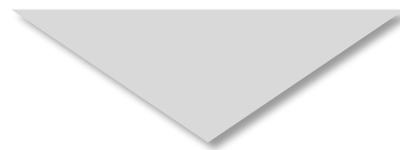
静止軌道

他業種も含めパートナーと共に革新的な宇宙ビジネスを創出

これからのスカパーJSATグループ



メディアと宇宙の事業を併せ持つユニークな存在 ⇒ 当社の独自性



“スカパーJSAT”という独自分野のビジネス開拓へ

宇宙ビジネスの活性化

スカパーJSATといえば
スカパー！>JSAT

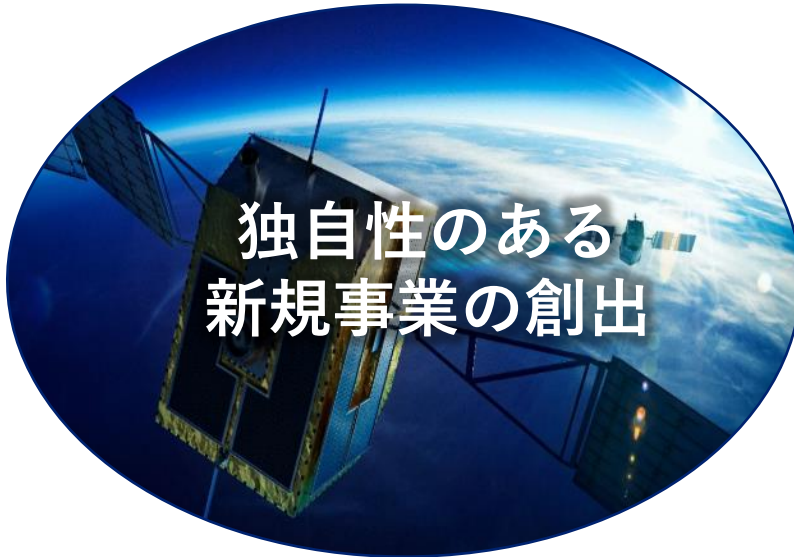
社内スタートアップ制度
アイデアの具現化



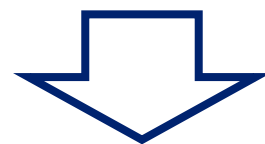
宇宙業界のポテンシャル



スカパーJSAT
衛星事業30年の実績



独自性のある
新規事業の創出



当社事業への理解・共感を得て、企業価値を高めるため
企業ブランディングの活動強化

■役員報酬制度改革によるガバナンス強化

コーポレート・ガバナンス強化の一環として、既存の金銭報酬枠内で新株発行による取締役等への譲渡制限付株式報酬制度を導入予定。

（目的）

企業価値の持続的な向上を図るインセンティブを付与すると共に、株主の皆様と一層の価値共有を進め、企業の持続的成長と中長期的な企業価値の向上への貢献意識をより一層高める

（対象）

(株)スカパーJSATホールディングス 取締役(社外取締役除く)
スカパーJSAT(株) 取締役、執行役員、理事

※当制度の導入は、2020年7月30日開催予定の第13回定時株主総会での議案の承認が前提となります。

A high-resolution image of Earth from space, showing the Western Hemisphere. The Americas are visible, with North and South America in the upper right and lower right respectively. The Atlantic Ocean is in the center. The Earth is set against a deep blue background filled with numerous small, distant stars. The text "Space for your Smile" is written in a white, serif font across the middle of the image, partially overlapping the Earth's surface.

Space for your Smile

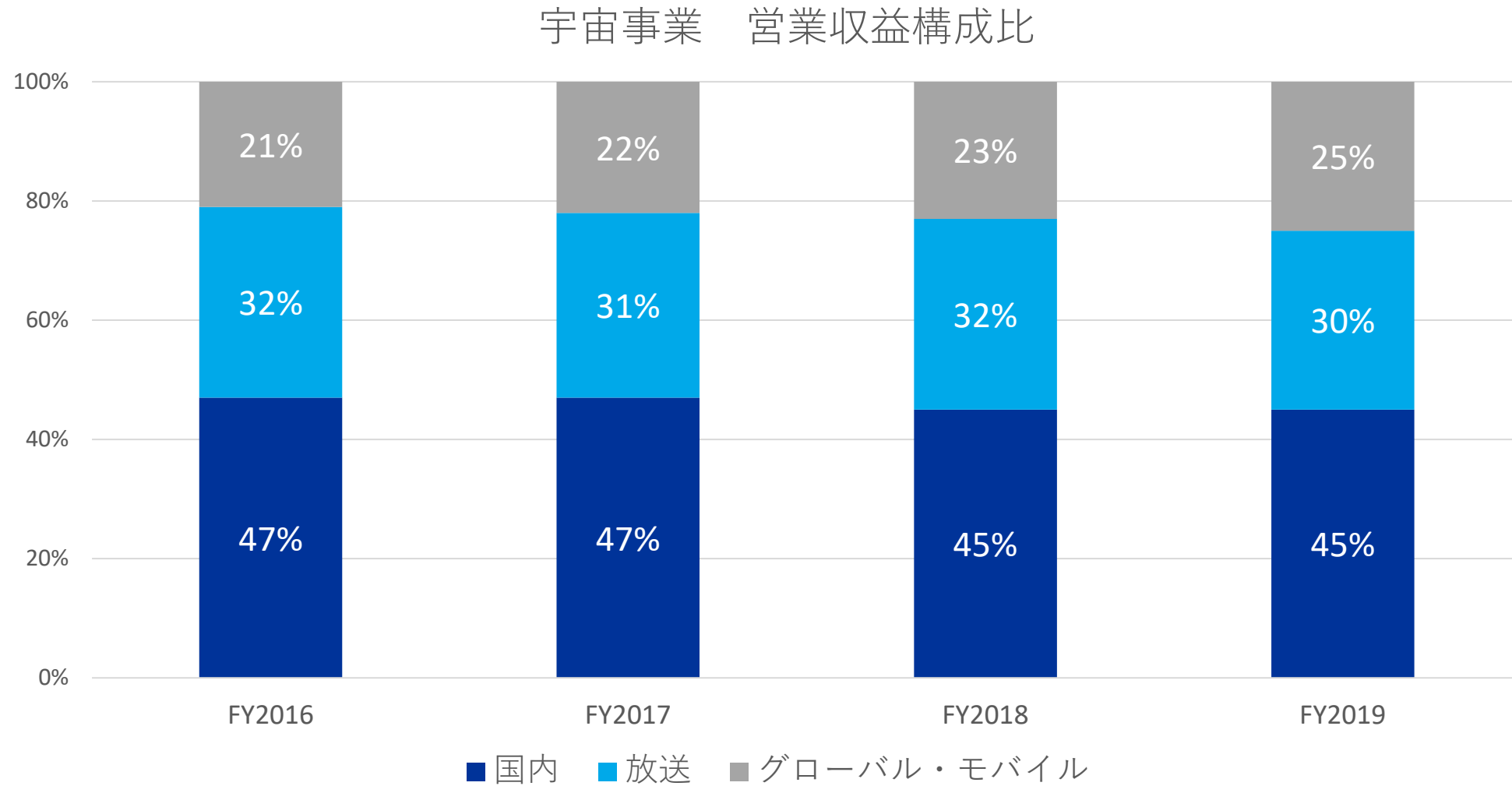
参 考 資 料

セグメント別 連結業績の推移(2018年度1Q ~ 2019年度4Q)

対前年同四半期比較

(百万円)

	2018年度					2019年度				
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期
営業収益	58,772	35,066	34,716	35,458	164,014	34,519	34,752	34,552	35,717	139,541
メディア事業	25,857	25,368	25,160	25,109	101,495	24,985	24,822	24,213	23,623	97,645
宇宙事業	35,541	12,266	12,221	13,359	73,389	12,570	12,893	13,180	14,889	53,533
消去又は全社	△2,626	△2,569	△2,665	△3,009	△10,870	△3,037	△2,963	△2,842	△2,794	△11,637
営業利益	4,646	4,969	3,033	2,642	15,290	3,694	4,636	3,971	2,960	15,263
メディア事業	797	2,055	19	△343	2,528	654	1,932	1,284	△795	3,076
宇宙事業	4,034	3,082	3,170	3,142	13,430	3,225	2,875	2,855	3,945	12,901
消去又は全社	△185	△168	△156	△157	△668	△185	△171	△168	△189	△714

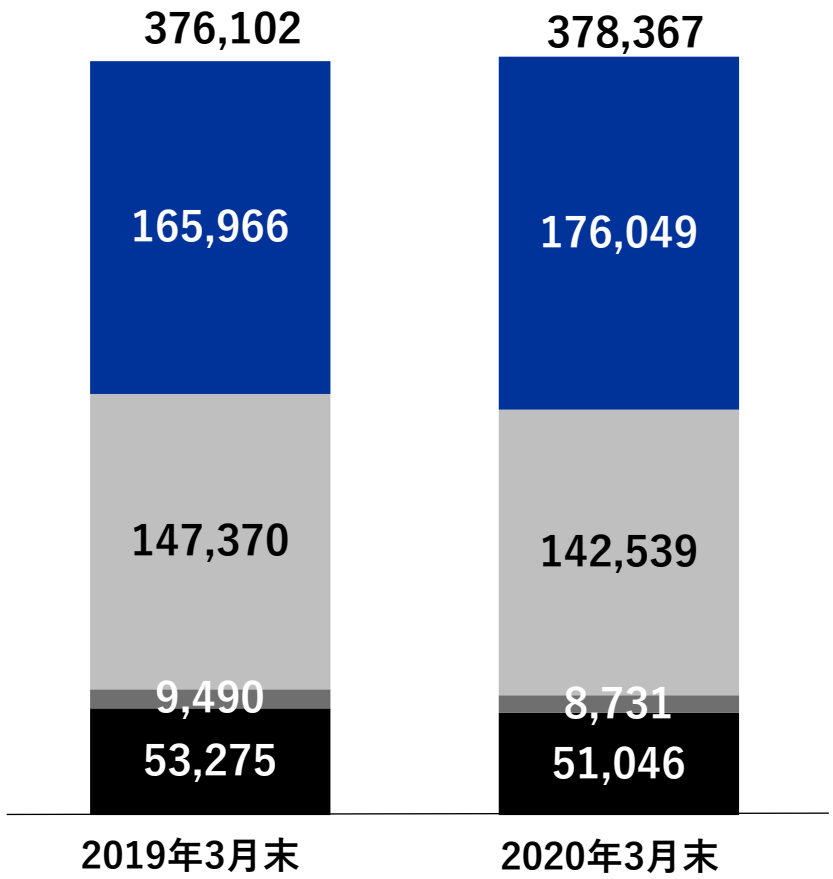


※2016年度、2018年度の防衛省向け通信衛星売却の影響を除く

連結貸借対照表

資産

(百万円)

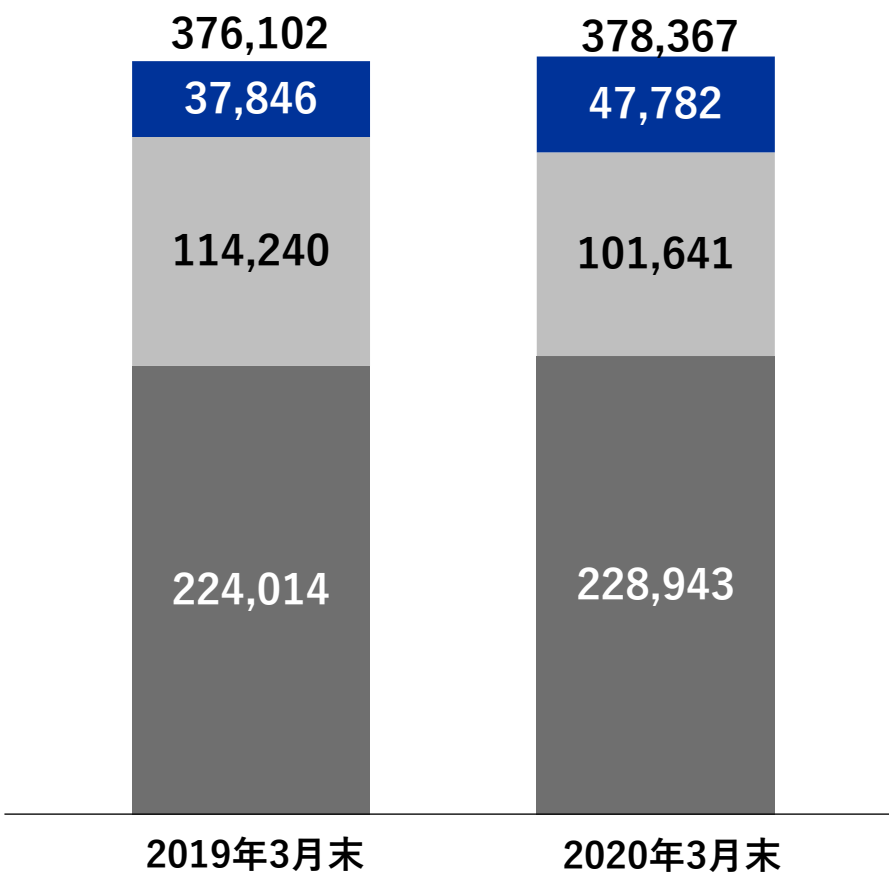


負債・純資産

自己資本比率： 58.9 %

60.3%

(百万円)



流動資産

有形固定資産

無形固定資産

投資その他資産

流動負債

固定負債

純資産

(百万円)

	2018年度 累計	2019年度 累計
営業活動によるキャッシュ・フロー	25,898	28,879
投資活動によるキャッシュ・フロー	△33,469	△20,825
フリー・キャッシュフロー (*1)	△7,570	8,054
財務活動によるキャッシュ・フロー	9,362	△12,515
現金及び現金同等物の期末残高(a)	48,089	43,602
有利子負債期末残高 (*2) (b)	108,086	102,442
純有利子負債期末残高 (b)－(a)	59,996	58,839

*1. 営業活動によるキャッシュフロー＋投資活動によるキャッシュフロー

*2. 借入金＋無担保社債

2020年度投資計画

(億円)

	2019年度 実績	2020年度 見込	差異	備考
① 設備投資額	195	245	50	
内訳： メディア事業	107	62	△45	東京メディアセンター既存設備更新の投資額減少
宇宙事業	87	180	93	衛星の調達等
その他	2	3	1	
② 事業投資	7	6	△1	
③ 営業CFに含まれる投資	147	17	△130	JCSAT-17
①+②+③ 投資合計	349	268	△81	

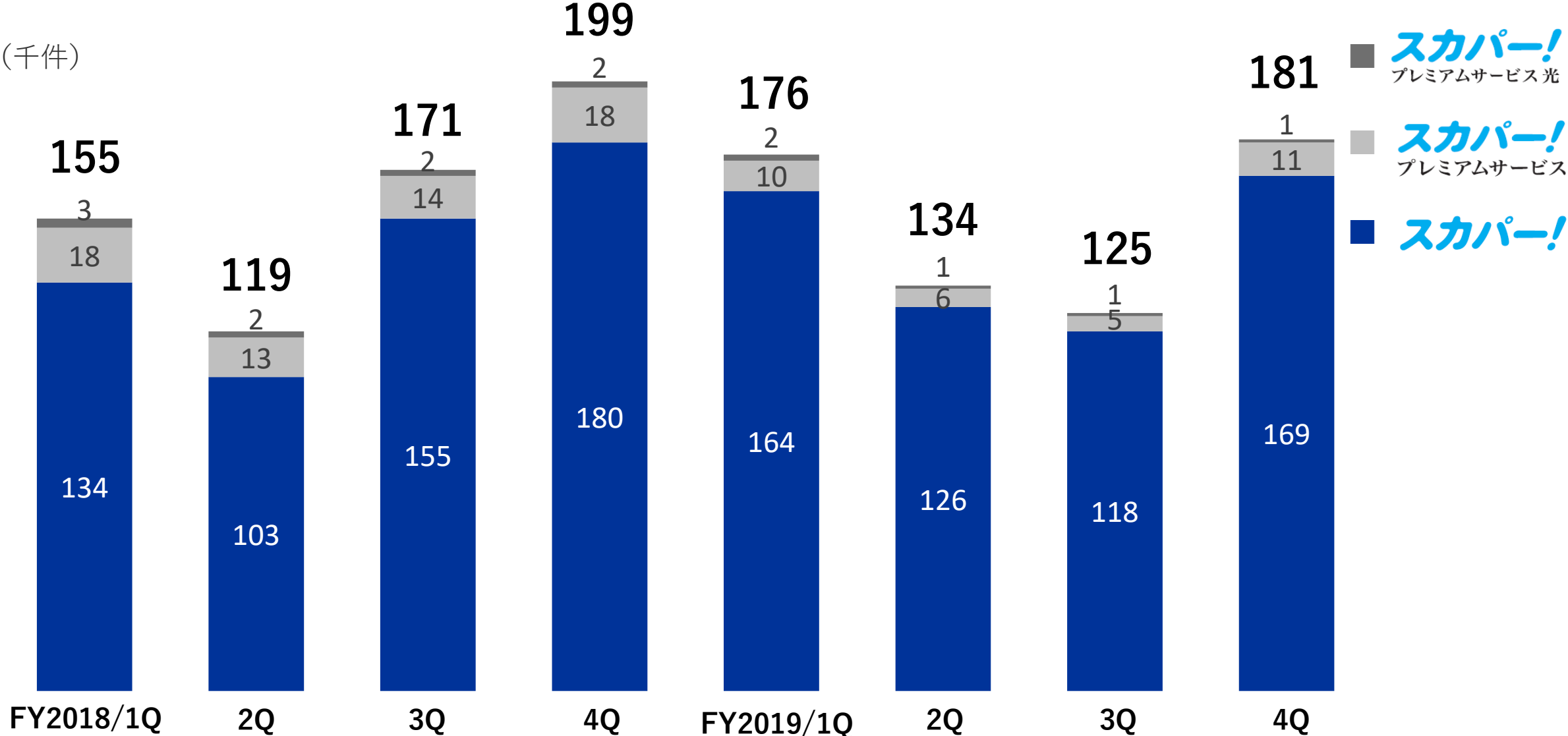
想定為替レート：1ドル=105円、1ユーロ120円

2020年度減価償却費見込み

(億円)

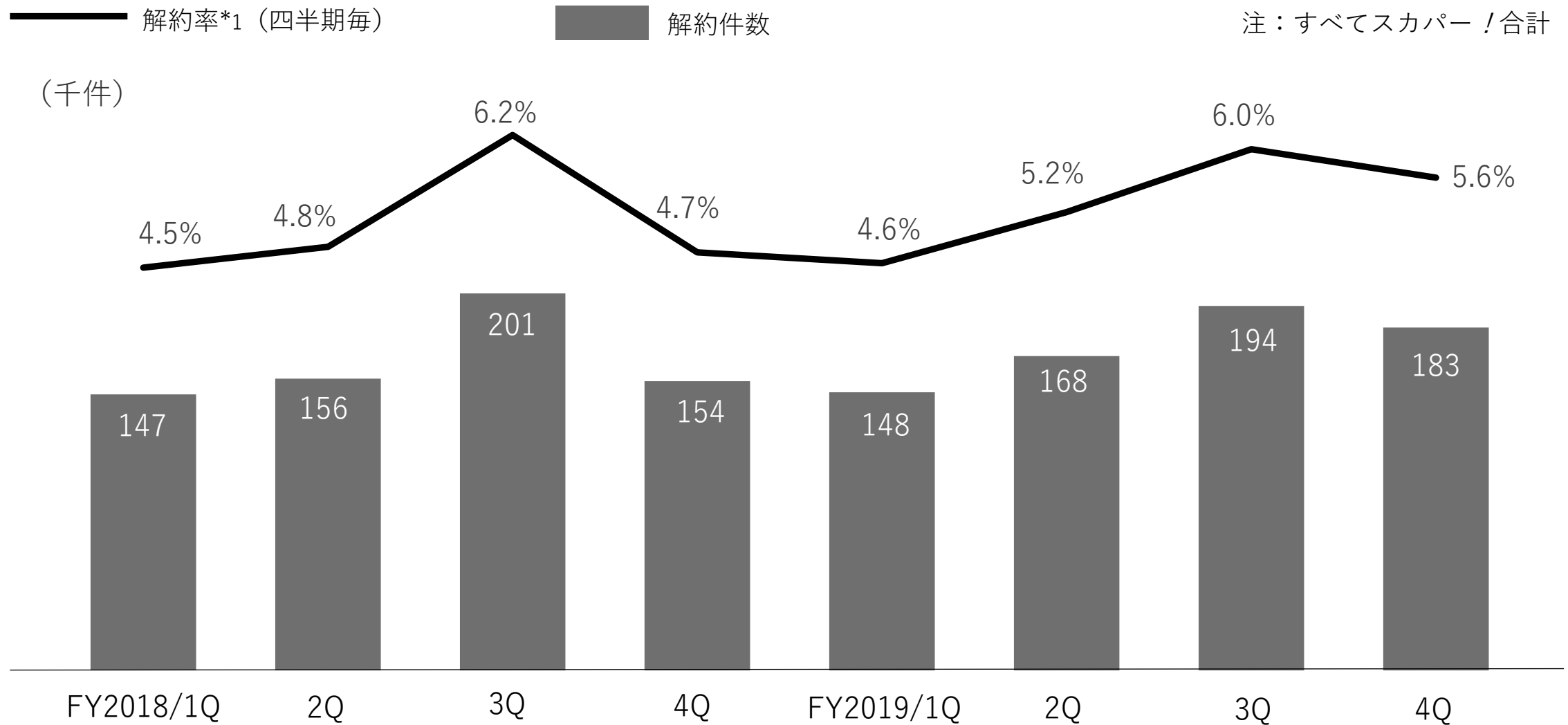
	2019年度 実績	2020年度 見込	差異
減価償却費	233	228	△5
内訳： メディア事業	85	74	△11
宇宙事業	145	154	+9
その他	3	1	△3

新規加入件数の推移（ICカード）



* 従来「新規」「再加入」として別々に集計していた加入件数を合算し、「新規」として集計しております（2019年度第3四半期開示資料より）。

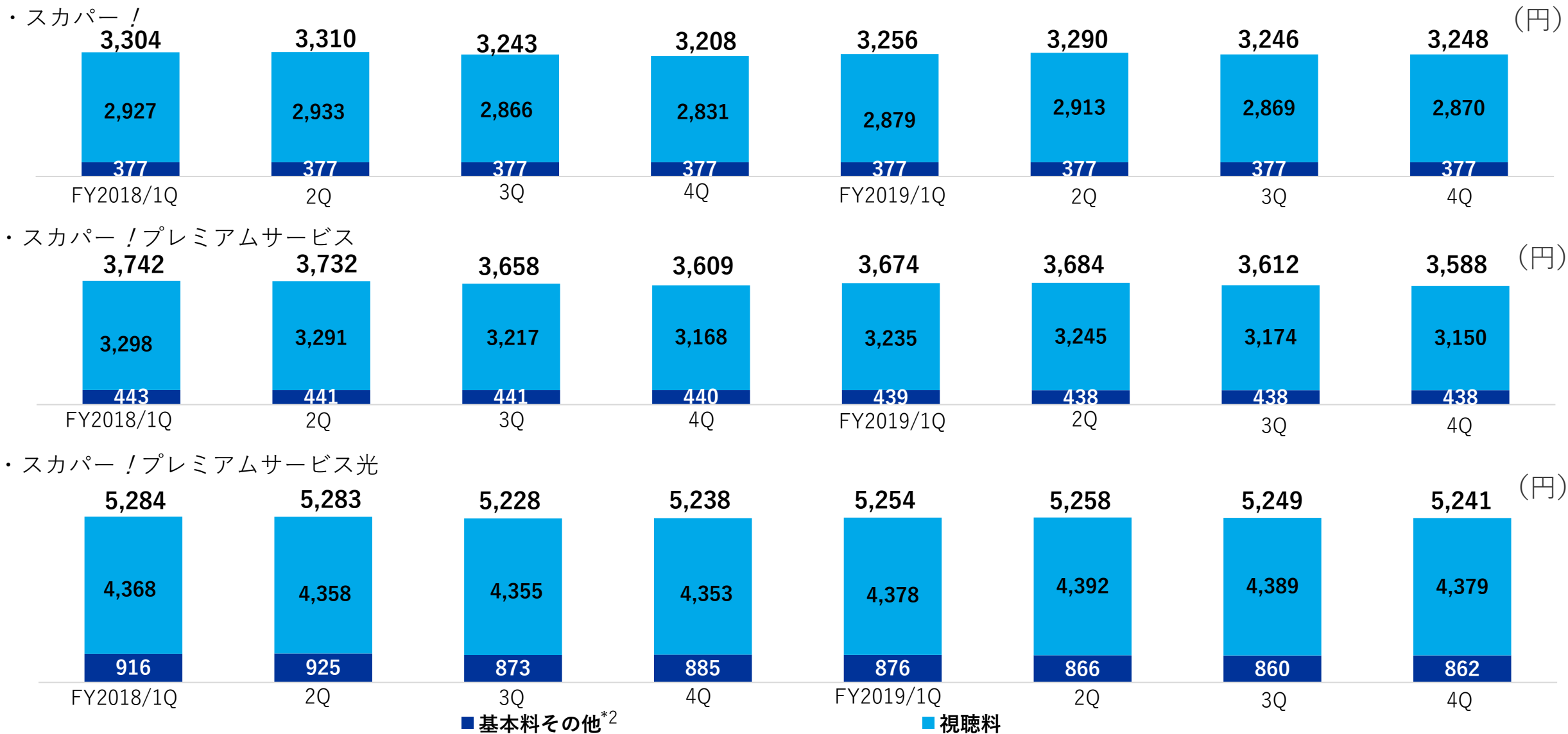
解約率の推移（ICカード）



*1 各四半期の解約件数合計を前年度末の累計加入件数で除した率を表示しております。

*2 従来「新規」「再加入」として別々に集計していた加入件数を合算し、「新規」として集計しているため、「再加入件数控除後の解約率」は算出しておりません。（2019年度第3四半期開示資料より）

契約者支払単価*1



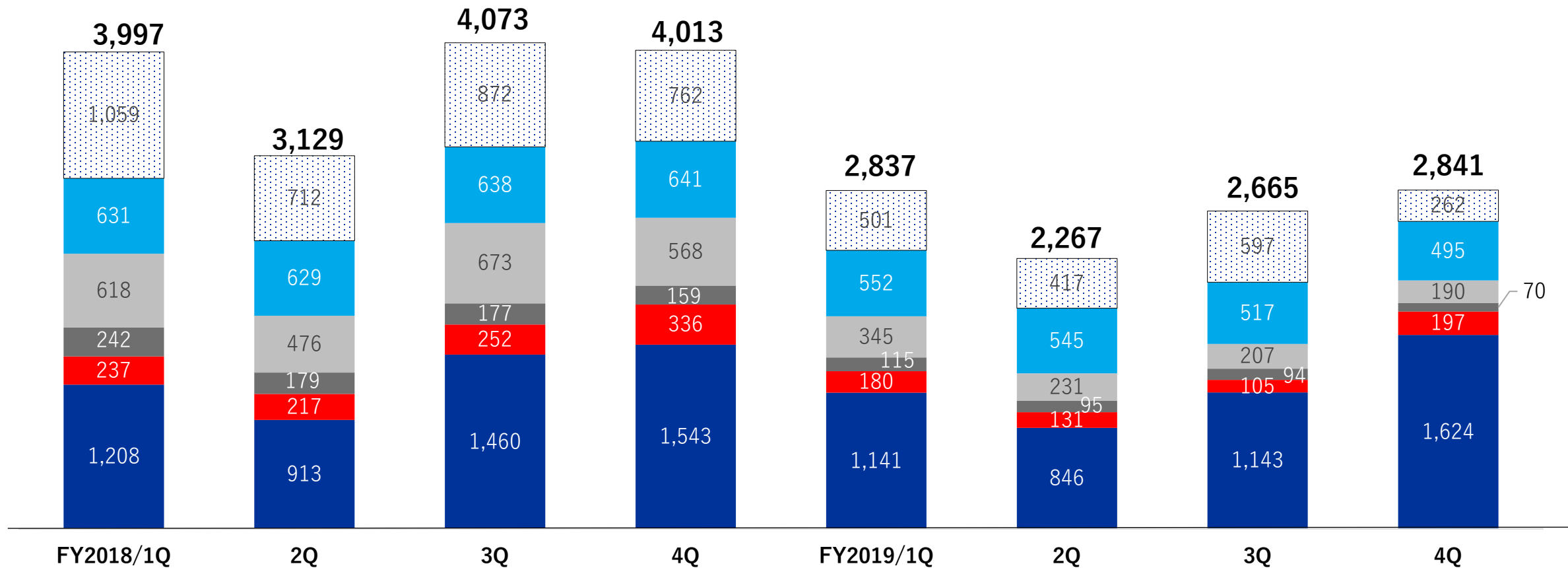
*1. 契約者が支払う月額視聴料等の平均単価。従来「加入者」（ICカード数）単位で開示していた月額単価を、「契約者」単位に変更しております（2019年度第1四半期開示資料より）。

契約者が支払う視聴料のうち、スカパー！では約30%を業務手数料として、スカパー！プレミアムサービスでは約100%を視聴料収入として営業収益認識しております。

*2. 基本料その他 基本料及びセットトップボックスレンタル料

顧客獲得費用総額 (SAC)

(百万円)



■ 広告宣伝費 ■ 加入促進費 ■ 販売インセンティブ ■ 加入キャンペーン費 ■ その他 ■ 無料番組制作費*

* 広告宣伝費：各種媒体での広告宣伝費用、加入促進費：スカパー！加入促進のための費用(パンフレットや会場販促)
販売インセンティブ：家電量販店や携帯キャリアへのインセンティブおよび取次手数料
加入キャンペーン費：新規加入キャンペーン費用(アンテナサポート等)、無料番組制作費：BSスカパー！等の番組制作費用
その他：加入獲得にかかるカスタマーセンター運営費用等

(百万円)

		SJC	SPCC	SPET	SPBC	SNET	JII	JMC	ENR	WWJ※
事業内容		放送プラットフォーム、衛星通信	有料多チャンネル放送等のカスタマーセンター運営	衛星基幹放送業務、衛星一般放送業務等	コンテンツ制作事業、番組供給事業等	ネットワークサービス、システムインテグレーション	北米での衛星回線販売事業	移動体衛星通信（インマルサット等）サービス事業	産業用ドローンの設計、製造、販売	海外チャンネル運営事業等
保有割合（％）		100.0	100.0	100.0	100.0	92.0	100.0	53.3	100.0	
営業収益	FY2018	135,094	6,613	52,927	4,422	3,819	1,810	2,462	428	204
	FY2019	111,806	6,378	49,909	3,857	4,365	3,025	2,746	304	210
営業利益	FY2018	14,587	543	1,451	529	337	390	393	△950	△1,005
	FY2019	16,357	381	457	459	448	△355	369	△617	△613
経常利益	FY2018	15,736	542	1,458	529	340	435	411	△848	△1,008
	FY2019	16,968	387	464	459	466	△384	365	△918	△613

SJC：スカパーJSAT株式会社

SPCC：株式会社スカパー・カスタマーリレーションズ

SPET：株式会社スカパー・エンターテインメント

SPBC：株式会社スカパー・ブロードキャスティング

SNET：株式会社衛星ネットワーク

JII：JSAT International Inc.

JMC：JSAT MOBILE Communications株式会社

ENR：株式会社エンルート

WWJ：WAKUWAKU JAPAN株式会社

※WAKUWAKU JAPAN株式会社は2020年3月1日付けでスカパーJSAT株式会社に吸収合併されたため、FY2019のWAKUWAKU JAPAN株式会社の業績は2020年2月度までの数値を記載しております

Space for your Smile

不安が「安心」にかわる社会へ
不便が「快適」にかわる生活へ
好きが「大好き」にかわる人生へ